
特定非営利活動法人アサザ基金
第19期（2017年）通常総会
議案書

日時： 2018年5月24日（木）19:00～20:30

場所： エスカード生涯学習センター第1講座室（029-874-3131）
牛久駅西口下車徒歩2分 エスカードビル4階 駐車場（有料）

議題： (1) 第19期（2017年度）活動報告及び活動決算承認の件
(2) 第20期（2018年度）活動計画並びに活動予算について
(3) その他 定款変更について

特定非営利活動法人アサザ基金
300-1222 牛久市南3-4-21
電話 029-871-7166
asaza@jcom.home.ne.jp

特定非営利活動法人アサザ基金第19期（2017年度）活動報告 2017年4月1日～2018年3月31日

2017年度は、社会が機能不全を示す中で数多くの問題が生じました。しかし、問題の存在自体を認めることができない状況が続き、社会の停滞を招いています。このような状況の中で、アサザ基金は様々な問題や課題（常陸川水門の柔軟運用や世界湖沼会議の企画、放射能問題など）と正面から向き合い、新たな発想や分脈で社会の壁を溶かす取り組みを通して、解決に向け活動してきました。

全国展開している環境学習事業では、北九州市や秋田県の児童が牛久市内で子供たち同士の交流会を実現しました。牛久市奥野地区では、地元の小中学校とタイアップして古民家を活用した地域活性化の新たな活動を進めました。企業との協働による水源地保全事業においても、多くの参加者のご理解とご支援をいただき、地域住民とも連携しながら着実に成果を上げることが出来ました。

20年に及ぶトンボ公園の維持管理体制が高齢化などで存続の岐路に立っています。今後に向けて話し合いました。

2017年4月1日から2018年3月31日までに14,550名がアサザプロジェクトの活動に参加しました。

○霞ヶ浦・北浦流域の水辺及び漁場の保全及び再生事業

- 2018年10月に、茨城県で開催される世界湖沼会議にむけ、放射能問題をテーマにいれるよう国際湖沼環境委員会宛（2018年2/15）、県知事宛（2018年2/13）に要望書を提出しました。
- ここ数年減少傾向が続くアサザ群落を復活させるため、企業や市民によるアサザの植付けを霞ヶ浦湖岸で行いました。保育園の子供達や企業の方々など157名が参加しました。7月には玉里東小が昨年に引き続き、地域住民の協力を得ながら全校で植付け会を実施。その指導に当基金の職員が対応しました。また、公益財団法人海原会から、阿見町にある陸上自衛隊武器学校の校内にある記念公園の池にアサザを植え付けてほしいとの依頼をいただき、8月30日に実施しました

アサザの植付	茨城日化サービス(株) 木原 7/26 (70名) 日立化成(株) 木原 8/5 (11名) (株)SH カッパー プロダクツ 8/26(7名) 予科練 8/30 納場保育園 9/1 (50名) 新宿カッパ村 浜 9/12 (18名) ● (株)ツムラと大日本印刷(株)にはアサザの里親としてご協力いただきました。 (敬称略)
--------	---

3. 2018年1/29「オオヒシクイの保護に関する要望書」を県知事あてに提出しました。
4. 潮来ジャランボ PJ 実行委員会より委託を受け、水郷トンボ公園の維持管理（4/28 開園作業 5/6 田植え 池の搅乱 江間の整備 7/16 コカ・コーライーストジャパングループ労働組合による池の除草 9/17 稲刈 11/23 話合 12/19 閉園作業）をジャランボの皆さんや地域住民と連携して実施しました。（参加者 102名）

○ 学校ビオトープ及び環境教育事業

日本の教育力の低下が内外から指摘されています。アサザプロジェクトの環境学習は、子ども達が自ら問いを立て、答えの用意されていない問題に応える学習を進めています。地球環境基金から助成をいただき、流域外の学校も訪問しました。2017 年度は全体で 12,394 名の児童生徒が参加しました。

1. 牛久市教育委員会との協働による環境学習出前授業（2004 年～）を、市内全小中学校で年間を通したプログラムで 102 回実施し、計 8,976 名が参加しました。2017 年 1 月 28 日には「カッパ大交流会」が開かれ、子ども達が日頃の学習の成果を発表するとともに、市長さんに街づくりの提案をしました。秋田リキノスケ未来塾から 8 名、北九州市立すがお小の生徒 10 名を招いて交流しました。
2. 霞ヶ浦流域では、石岡市、小美玉市、行方市、龍ヶ崎市の小学校に 10 回訪問し、345 名の児童が参加しました。石岡市立三村小では BT の再造成（3/8）も行いました。
3. 北九州市立曾根東小、市丸小、すがお小へは 6、9、11、1 月に訪問し、25 回の授業に 985 名が参加しました。11 月の環境フォーラムでは飯島がコーディネーターを務めました。また 2 月のカッパ大交流会にはすがお小 4 年生 10 名が参加しました。
4. 秋田県では、リキノスケ未来塾に 10 回、潟上市、三種町の小学校 4 校に 14 回 812 名が環境学習に参加しました。
5. NEC キャピタルソリューション株と協働で進める <わくわく子どもの池プロジェクト>（2007 年～）では、都内の小学校 6 校で計 14 回の授業を実施、989 名の子供達が参加しました。
6. 岡山県真庭市立中和小と瀬戸内海に面する岡山市立小串小で 6 月 7 月 9 月 10 月 11 月 2 月に計 12 回の授業を実施し、163 名が参加しました。2018 年度は備前市の小中学校でも訪問授業が計画されています。
7. 島根県松江市にある認定 NPO 法人自然再生センターの依頼で、松江市内の小中一貫校ハ束学園で 5 年生に環境学習の授業を行い、オガノリ刈体験授業にも協力しました。（参加者 64 名）

8. 小学館が運営する、柏市の「しこだのもり保育園」で園児と共にBT作りを実施しました。(11月～1月 5回) 生き物とお話しする授業や植栽、裏庭の遊び場づくりなど、職員総出で行いました。(参加者 60名)

○ 環境保全型農業及び産直事業

日立化成(株)が桜川市において、米作りを開始しました。牛久市遠山地区で鈴与(株)が新たに田んぼ作りに加わり、3月には初イベント「踏耕」に挑戦しました。これで、7企業、1大学、参加者総数は1671名でした。

NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金 (上太田地区は2010年～全長1キロの谷津田再生)	田植 5/20 103名 草取 7/22 61名 稲刈 9/23 86名 計画づくり 12/9 11名 味噌づくり 2/10 57名 達人コース 135名 計 453名
三井物産谷津田再生プロジェクト(2007～) 開拓者コースがスタート！	田植 6/3 48名 草取り 7/8 40名 稲刈 10/15 29名 仕込 1/13 29名 蔵出 3/3 32名 開拓者コース 8名 計 186名
一橋大学大学院(ICS) 海外留学生との谷津田再生プロジェクト(2014年～)	講義 6/14 55名 田植 6/18 52名 草取 7/2 7名 稲刈(台風で中止) 計 114名
UBS RICE Project(2008年～) 山之上谷津田再生協議会と連携して進めています。	田植 5/13 120名 草取 6/10 70名 稲刈 9/24 86名 蔵出 1/28 50名 計 326名
ホギメディカル谷津田再生プロジェクト(2009年～) 牛久市との協働事業です。	田植 5/27 77名 草取 7/1 稲刈 9/30 酒仕込 3/24 計 273
かっぱん田プロジェクト(2010年～) 損保ジャパン 日本興亜ラーニング生(大学生)主体の援農活動	代掻き 5/7 15名 田植 5/27 19名 草取 6/25 17 稲刈合宿 10/21-22 29名 脱穀 5名 収穫祭 2/24 52名 計 137名
日立化成 しょうゆとお米で自然とつながろうプロジェクト	田植 4/29 31名 草取 6/17 61名 稲刈 9/9 31名 計 123名
SUZUYOいいね！プロジェクト	踏耕 3/17 計 59名

牛久市奥原にある耕作放棄された畠で「ビオトープ農法の確立と普及」に取り組みました。キヤノンマーケティングジャパン(株)との協働事業(2009年～)です。古民家も活用しました。

8/27 写真教室とBT 農原体験 15名 11/25 BT 農原体験と秋の生物観察 11名 12/10 BT 農原づくりと冬の生物観察 18名 計 44名

○ 森林の保全管理事業

牛久市クリーンセンター近くの山林で、「森づくり（2009年～）と Beeプロジェクト（2010年～）を UBS証券株からの支援と牛久市の協力をいただき、植林や森の整備を進めました。 4/22 春イベントとして、森の手入れとBTを作りました。23名が参加。

○ 地域アサザプロジェクト及び環境保全型産業又は地域の育成及び支援事

アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」を愛友酒造<潮来>で製造し、希望者にお分けしました。引き続き霞ヶ浦ブランドとしての定着を目指していきます。アサザ基金事務所でも支援金（1,100円）をいただくと「広がれあさざの夢」をお渡しできます。

湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

今年も霞ヶ浦再生ブランドの煎餅製造に小美玉市の大形屋商店に協力いただきました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。煎餅の原料には「密漁をしない漁師から仕入れた「ざざえび」と、谷津田再生事業に取り組んでいる(株)ホギメディカルとかっぱん田PJが栽培した無農薬栽培米の米粉を使用しました。牛久市内の社会福祉法人みのるの郷で販売の協力をいただきました。

牛久市向台地区谷津田の再生と自然観察会

牛久市立向台小学校児童の有志及び向台自治会有志の方々と協働して、谷津田の再生と自然観察会に取り組みました。牛久沼水源地谷津田の生物多様性保全と地域コミュニティの活性化を図りました。

6/11 田植え 17名 7/21 草取 13名 10/28 稲刈 10名 11/5 収穫祭 14名 3/4 ひなまつり 24名 計 101名

花畠プロジェクトへの協力（2011年～） 日本テキサス・インツルメンツ(株)美浦工場は、近接地にある耕作放棄地でヒマワリやナタネを栽培し、油を絞って社内で活用しており、その活動に協力しました。

研修生やボランティアの受け入れ

損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSOラーニング制度」から3名のインターン生を受け入れました。（7月～2月の8ヶ月間）アサザプロジェクト全般について体験するとともに、かっぱん田での稻作体験を企画運営、収穫したもち米から煎餅を作ったり、牛久南中学校の生徒とも協力して環境学習に取り組みました。

会報の発行

会報「あさざだより」を2017年7月、2018年1月と2回発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し、活動紹介に努めました。(発行部数/毎号 約1000部)

ホームページ運営

リアルタイムで情報を発信できるホームページの活用を充実させることが課題となっています。

講演、視察、ヒアリング、取材等の受け入れ

講演や大学の講義に代表理事の飯島等が講演者やパネラー、講師として4回出席し、アサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。

ヒアリングは大学や大学校から2件、8名

視察では、市民団体や大学など3団体、50名を受け入れました。

2017年度の寄附総額は4,487,305円でした。ご支援ありがとうございました。

イオンのイエローレシートキャンペーンから、総額79,600円(4/19 47,100円、10/26 32,500円)をご寄付いただきました。アサザプロジェクトの活動全般にかかる物品を購入し、有効に活用させていただきました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2017/4~2018/3

環境教育事業 12,394

水源地保全事業 1,671

その他 488

計 14,553名

1995年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ312,360名となりました。

